

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの人格を尊重し思いや要望に寄り添い、その方の持っている能力を生かしなが楽しみやハリのある生活が送れるよう、ご家族や地域の方々の協力を頂きながら支援している。又、医療との連携を図りながら、安全で安定した体調を維持できるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時、地域の住民として過ごせるような色々な橋渡しをしている。案内を受け、中学校の文化祭や敬老会に参加させてもらった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内のスーパーに買い物同行している。又、町内のお祭りでは、神輿渡御に来て頂いたり、夏祭りや避難訓練には近所の方にチラシを配り、参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で、日々の生活の関わり方等を説明したり、避難訓練などでは、実際に見学に来ていただくことで、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業活動を報告し、意見を頂いている。質問等に現状を説明し、理解して頂きながら、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがある時は、電話等で親切に教えて頂いている。特に新しい入居者の方の情報提供等には協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは以前より取り組んでおり、職員全員が周知していると思われる。緊急やむを得ない身体拘束も必要性はなかった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5月には「不適切なケア」の勉強会を行い、即、権利擁護委員を中心にアンケートを実施。8月のミーティング時にはユニットの注意点であった言葉の暴力等も含め再度話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月のミーティング時に小樽・北しりべし成年後見センターの資料を基に勉強会をした。又、利用者様で後見制度を利用している実例、職員の生活でも参考にできる事等の説明もした。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、都度質問があれば答えている。入退居時、ご家族と共にDr.から説明を受けている時に再度確認の質問をされた時もあった。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のご家族の言葉から要望を察知し、以前、外部評価委員から助言があったご家族の言葉を記録に赤線を引いたりしながら要望に添えるよう努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やユニットの懇親会で(半年に1度)意見を聞いているが、常にユニットリーダー、GM、管理者、事務員は職員の意見に耳を傾けている。入居者様の食事や電化製品、物品等の交換について反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力や勤務状況を把握しながら、より以上のレベルアップや向上心が持てるよう、研修会参加や役職への促しにつなげている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を流し要望で研修が受けやすいようにしている。又、職員一人一人の力量を見極めながらスキルアップできるよう研修受講の誘導をしている。どちらもミーティング時に研修報告をする事で再度、研修内容の確認を行ってもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から、5ユニット間の相互訪問で(ほぼ毎月)互いのユニット間の良い所、悪い所を見直し、即、居室内の整理整頓、遅番の申し送り方法等、ユニットのスキルアップにつながるよう取り入れ、実践している。又、以前から行われている小樽市のグループホーム協議会が実施している相互訪問や研修会で交流の機会もある。			

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に見学時及び入居時のコミュニケーションには注意を払い(ケアプランにも掲げている)、少しでも不安が軽減できるよう努めている。入居後の様子をアセスメントしながら居心地の良い生活環境を提供できるよう話し合いながら努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特にご家族から色々情報や協力も頂きながら、ご家族様と何でも話せるように信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談及び面談時等に困っている事を聞きながら、入居前にアセスメント、援助計画書を作り、入居時、ご家族に要望の確認を行いながら説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とコミュニケーションを図り、お手伝い等、声掛けを行い、入居者様の役割として共に支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、ご家族と相談しながら家族との関わりも継続できるよう、必需品、要望の買い物、通院同行等に協力を頂いた。夏祭り、イベント時はご家族と一緒に楽しんでいた。又、甥の「細川たかしさん」が面会に来てくださり、写真を撮るなど楽しい時間を過ごして頂いた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様に知人・友人からの電話や面会があれば、取次ぎ、通院や美容院の帰りには、行きつけだった市場などに買い物に行かれています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの利用者同士の会話やゲーム等で楽しい時間を共有できるよう橋渡しをしている。時々、入居者様同士の部屋を行き来され、お話を楽しまれている。時には職員が間に入り対応することもある。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養型へ移った方、入院したままの方のお見舞いに行っていた。亡くなられた入居者様のご家族からウェスを頂いたり、必要書類や手紙等のやり取りもあった。退去された方々のご家族はとも感謝して下さっていたと思われる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院・外出・買い物・散歩など、できるだけ要望に応えるようにしている。2カ月に1度は、出前寿司やお寿司ツアー、今年は弁当持参での花見外出にとでも喜んでいただいていた。緊急性のない通院要望時は受診日を相談して納得頂いていた。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔、刺し子をしていた方に布巾縫いをお願いしたり、猫好きな方、書物が好きな方々にはそれぞれ心地よく過ごせるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に、その日の様子を残している。毎朝の看護師、CMを交えた申し送りそれぞれの心身状態、気づきの点を話し合っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	看護師、医師、家族の助言をもとに月に1度、カンファレンスを行い、意見やアイデアを出し合って介護計画の見直しなどを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や言動・表情や体調の変化などを、毎日個人記録や健康チェック表に記入し、特に、今までにない様子は申し送りに記載し他の職員が情報を把握しやすいようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院外出後に買い物や外食に行ったり、要望に応じて週に2回、晩酌を楽しまれるなど、ニーズに対応し支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練と夏祭りには近所の方も参加している。毎年、中学校の文化祭の案内も頂き見学に行っている。又、中学生が雪明りの雪像づくりも行ってくれる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院や、要望や必要に応じて適切な医療機関へ受診できるよう、ご家族とも相談しながら対応している。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師も含めた朝の申し送りで利用者様方の身体状況を報告し治療及び指示をもらっている。又、必要に合わせ、係りつけ医との連絡をし、薬の相談をしたり、受診する事も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は近況の健康チェック表、アセスメントやADL等の情報提供を看護師にしている。入院後は週1度位の面会や電話等で状態を把握しながら出来るだけ、早期に退院できるよう情報をもらいながら努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医との話し合いの上、ターミナルケアが必要になった場合について、事前に話し合える場を設けている。入居契約を交わす段階で、重度化した際の意向について伺い、当施設で対応できることを伝えている。終末期を迎えた時には、看取り対応について再度話し合い、希望されるご家族にはご家族の同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の予定でAEDの使用方法や救命救急訓練を消防の方から指導を受けている。今年は6月の避難訓練後と9月2日の救急救命週間に東館の厨房で訓練が行われた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は施設全体の避難訓練を実施(今年は9月は昼と6月は夜間を想定)。消防の指導や地域住民の方にも協力を頂いている。ユニットごとに自主訓練も行っている。毎月1回、火元責任者会議を行い、災害対策を意識できる体制を整えている。ユニットミーティングでも火元責任者から報告してもらっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への呼びかけは名前に「さん」とし権利擁護委員会を中心に定期的にミーティング時に接遇や言葉かけの話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望に合わせた美容室外出や、買い物の要望にできる限り自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい方についても、選択肢を用いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや要望に合わせて、日々の暮らしを支援している。個々の希望にできる限り添えるよう、お話を聞き対応している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	要望のある方に意見を聞きながら、一緒に服選 びをしている。衣類が古くなった時には、ご家族と相 談しながら補充している。特に通院や美容室、買い 物、イベント外出時はおしゃれをするよう支援して いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、おしぼり洗いや食事の盛り付けなどをお願いし、行ってもらっている。食器拭きは、自らすすんで行ってくれる方もいる。おやつも含め、好みの副食の代理購入もしている。(週1度)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日記録し、食事量が低下している方は医師に相談し栄養補助剤の対応や少しでも食べてもらえるよう、寿司や好きな食べ物や飲み物を色々と提供していた。水分は一日、1000ccを目線においた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方に対しては、毎食後、口腔ケアを行っているが、自立している方にも必ず声掛けし見守るようにした。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯は安眠障害及び転倒等の怪我が発生しない様トイレ誘導やパット交換、ポータブルトイレ使用等、個々の排泄リズムに応じて声掛け誘導を行っている。排泄記録をつけながら、個々の状態把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りで排便の報告を行い相談しながら、処方されている下剤や整腸剤で調整している。状態を見ながら看護師が浣腸対応している。毎食時はバナナヨーグルト等を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、個々の希望通りに週2回のペースで入浴できている。入浴を嫌がる方も、本人が納得される日に入浴して頂いている。(陰部の清拭を毎日始めた。自立されている方は温かいタオルと提供し自分で行ってもらっている。)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もリビングで居眠りしているのを見かけた際には、自室でゆっくりと休んで頂いているが、夜間の安眠障害にならないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が利用者様方の処方箋を確認しながら、用法・目的等を理解するよう努めている。必要に応じて薬局に相談しながら指導を頂くこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や嗜好を考慮しながら、お手伝いをお願いをしている。もやしの芽取り、布巾縫い・洗濯畳み、新聞畳みなどできることをお願いしている。天気を見ながら向かいの公園での日向ぼっこやドライブも支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は月に1度はユニット行事を設け、花見・紅葉・食事ツアーなど外出できる機会を設けている。個別要望の買い物は、行ける範囲で近くのスーパーや市場へ出かけている。ご家族にも協力を得て、外出や外泊、旅行へ出かける方もいた。町内の敬老会ではホテルで昼食も楽しまれた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の額を管理されている方もおり、買い物に行った時などに直接支払いをされている。「お金大丈夫かい？」と心配される方には、家族から預かっていることを伝え、安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との連絡で電話を掛けた後に電話口が変わってもらい話をしてもらっている。贈り物に同封してある手紙を読んで差し上げたり、贈り物のお礼の電話をかける支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットが明るい雰囲気になるように、飾りつけを行い、季節ごとに壁紙作りを行い、季節を感じてもらっている。テーブルには季節の花も飾っている。その時々の入居者様の状況に応じて席替えをしながら、居心地の良い空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に座りやすいソファが置いてあり、日に何度かは気の合った方々が楽しそうに会話を弾ませている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで過ごされていた家から、使い慣れていた物を持ってきていただいたり、家具やソファを持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように、張り紙をしたり、転倒防止のため、ベッド柵に鈴を付け、音で訪室できるよう工夫している。入浴時でもできることは行って頂き、出来ない部分を介助している。年に一度位、「出来ること、わかる来こと」のアセスメントを行いながら自立した生活の支援をしている。		